

疾患特異的な装具の転倒予防の有効性の検討 ー文献レビュー

姿勢の安定性・平衡性は、多くの脊柱や下肢の障害の影響を受けていると言えます。転倒によって起きる股関節骨折などの傷害は患者さんのQOL(生活の質)にとっても大きな影響を与え、患者さんの家族などの介護者にも大きな負担になります。さらには、高齢者社会の医療制度へも大きな財政的影響を及ぼします。

痛みや変形に対しては、装具が処方されますが、転倒に対する装具の処方現状あまりありません。股関節骨折の予防に股関節プロテクターがよく処方されますが、有効かどうかは患者さんの適合性で決まります。地域社会に暮らす高齢者にとっては、転倒予防のために、転倒リスクの評価、転倒リスクファクターの特定、予防法の実施が普通行われます。

転倒予防のためには、様々な病理に対し姿勢の安定性を高める装具について、根拠に基づいて、有効性をしっかりと理解する必要があります。不安定である原因を究明するためには、装具を使っただけの改善具合だけではなく、単純だけれど信頼性のある手法が義肢装具士には必要です。これからは臨床研究が進み、装具を使っただけで、患者さんの転倒予防の効果をみるようになると思われます。ということでここからは、装具を使っただけの姿勢の安定機能を強める効果を考え、お話ししたいと思います。